

新課程共通テストに向けて
あらためて読み解く
「学習指導要領」

英語



学習指導要領を読み解き、新課程共通テストに備える

三位一体の「教育改革」において、その主なねらいと言われている高校教育の改革を含む「初等中等教育の改革」では、文部科学省からの発信に「新学習指導要領の目指す教育の実現」，「新学習指導要領の着実な実施」といった表現が散見され、**学校教育を中心に「教育改革」が現在も進行中**であることがわかります。

また、「**高大接続改革**」に位置づく**共通テスト**では、「問いたい力を明確にした問題作成」（これまでの共通テストの問題作成における基本的な考え方，大学入試センター），「高等学校学習指導要領において『主体的・対話的で深い学び』を通して育成することとされている、深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」，「出題科目の特質に応じた学習の過程を重視し、問題の構成や場面設定等を工夫する」（2025共通テスト問題作成方針，大学入試センター）といったように、**新課程共通テストでは、学習指導要領との関連が強く打ち出されています。**

以上のことから、新課程共通テストに向けて、あらためて学習指導要領で示されていることを読み解いていきたいと思います。

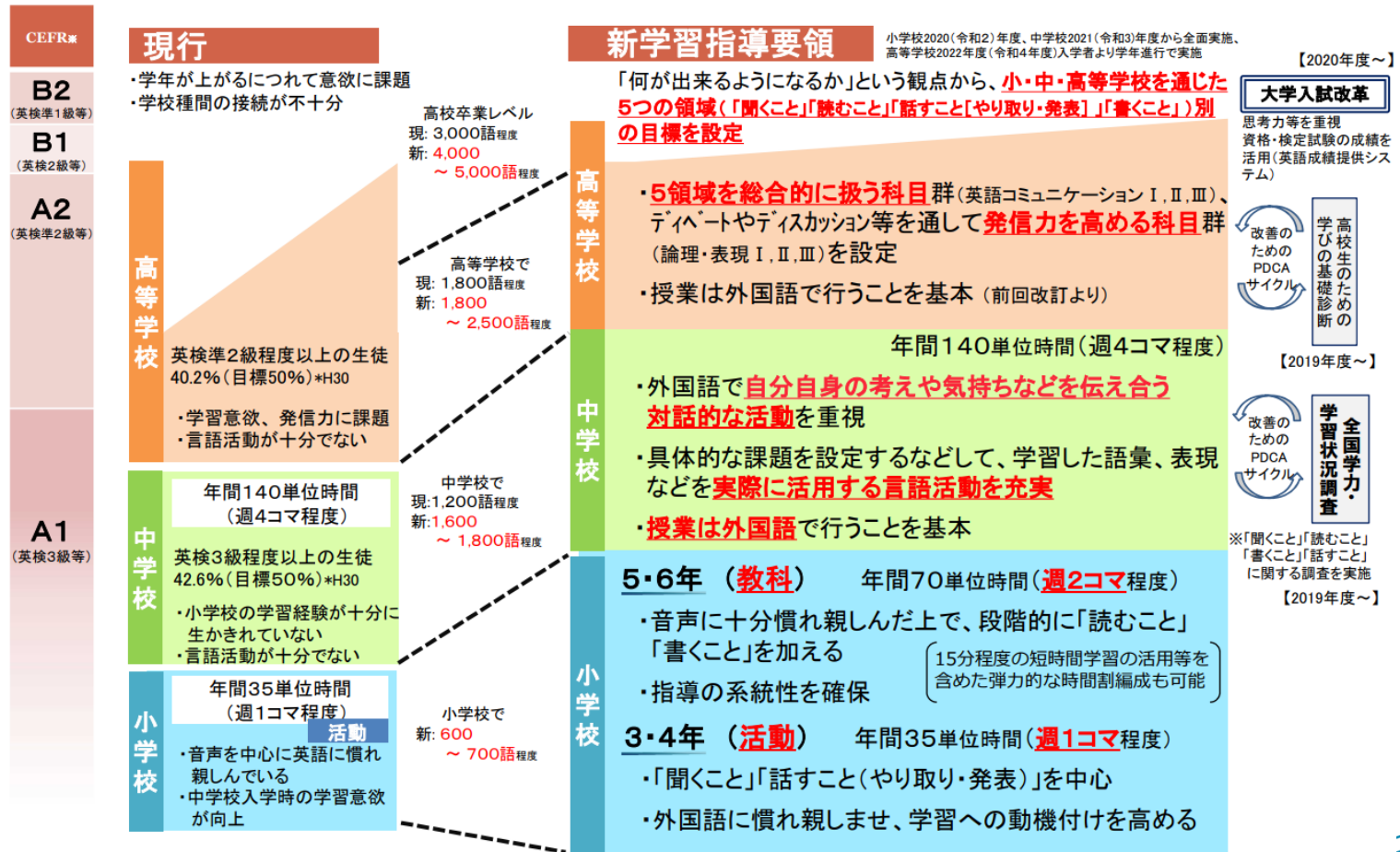
「学習指導要領」と「共通テスト」の関係

| 学習指導要領 | 共通テスト |
|---|---|
| <p>「何ができるようになるか」 - 目標, 学力 -</p> | <ul style="list-style-type: none"> □ 「問いたい力を明確にした出題」 □ 「知識の質を問う問題や, 知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視」 □ 「言語能力, 情報活用能力, 問題発見・解決能力等, 教科等横断的に育成することとされていることについても留意する」 |
| <p>「何を学ぶか」 - 内容 -</p> | <ul style="list-style-type: none"> □ 「高等学校学習指導要領に準拠するとともに, 高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とする」 |
| <p>「どのように学ぶか」 - 方法 -</p> | <ul style="list-style-type: none"> □ 「出題科目の特質に応じた学習の過程を重視し, 問題の構成や場面設定等を工夫する」 |

外国語教育の抜本的強化のイメージ

小学校中学年で「外国語活動」、高学年で「外国語科」を導入。小・中・高等学校一貫した学びを重視。

外国語教育の抜本的強化のイメージ



外国語教育の抜本的強化のイメージ

■従前課程から新課程への変更点

●科目編成

| | 従前課程 | 新課程 | 主な留意点 |
|------|---|---|--|
| 必修科目 | 「コミュニケーション英語Ⅰ」(3) | 「英語コミュニケーションⅠ」(3) | ・「コミュニケーション英語」に代わり、統合的な言語活動を通して、五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目として「英語コミュニケーション」が設定されました。 |
| 選択科目 | 「コミュニケーション英語Ⅱ」(4) 「コミュニケーション英語Ⅲ」(4) 「英語表現Ⅰ」(2) 「英語表現Ⅱ」(4) 「英語会話」(2) 「コミュニケーション英語基礎」(2) | 「英語コミュニケーションⅡ」(4) 「英語コミュニケーションⅢ」(4) 「論理・表現Ⅰ」(2) 「論理・表現Ⅱ」(2) 「論理・表現Ⅲ」(2) | ・「英語表現」に代わり、「話すこと」、「書くこと」を中心とした発信力の強化を図る科目として「論理・表現」が設定されました。 |

POINT1 聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域を設定。

POINT2 各領域で生徒に対する支援の程度と目標が段階的に示され、手助けをしながら徐々に自律した学習へ誘うよう記載。

POINT3 取り扱う語数が大幅に増加。

| 従前 | 新語数 | 累計 | 新課程 | 新語数 | 累計 |
|--------------|--------|--------|--------------|--------------|--------------|
| 中学校外国語 | 1,200語 | 1,200語 | 小・中学校外国語 | 2,200~2,500語 | 2,200~2,500語 |
| コミュニケーション英語Ⅰ | 400語 | 1,600語 | 英語コミュニケーションⅠ | 400~600語 | 2,600~3,100語 |
| コミュニケーション英語Ⅱ | 700語 | 2,300語 | 英語コミュニケーションⅡ | 700~950語 | 3,300~4,050語 |
| コミュニケーション英語Ⅲ | 700語 | 3,000語 | 英語コミュニケーションⅢ | 700~950語 | 4,000~5,000語 |

●語数 高等学校で1,800語 ⇒ 高等学校で1,800~2,500語

科目編成のポイント

科目編成のポイント：「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が新設。
 コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ→英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲへ。
 コミュニケーション基礎英語，英語会話は消える。

| | |
|---|---|
| <p>共通</p> | <p>小・中・高等学校一貫した学びを重視して外国語能力の向上を図る目標を設定し、目的や場面，状況等に応じてコミュニケーションを図る力を着実に育成。</p> |
| <p>英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ</p> | <p>【5領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な言語活動を通して「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」の力をバランスよく育成するための科目 <p>【語数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コミュニケーションⅠは、小・中学校で学習した語に400～600語程度の新語を加えた語。 ・英語コミュニケーションⅡは、英語コミュニケーションⅠに700～950語程度の新語を加えた語。 ・英語コミュニケーションⅢは、英語コミュニケーションⅡに700～950語程度の新語を加えた語。 |
| <p>論理・表現Ⅰ 論理・表現Ⅱ 論理・表現Ⅲ</p> | <p>【3領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化に特化した科目 ・「話すこと [やりとり]」の活動例：ディベートやディスカッションなど ・「話すこと [発表]」の活動例：スピーチやプレゼンテーションなど |

学習指導要領 「英語」改訂の趣旨（課題・背景）

平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、次のような、これまでの成果と課題等を踏まえた改善を図った。

・グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけではなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。

・平成21年改訂の学習指導要領は、小・中・高等学校で一貫した外国語教育を実施することにより、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力を身に付けさせることを目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通して指導の充実が図られてきた。

・しかし、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。

・高等学校の授業においては、依然として外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないこと、「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動が適切に行われていないことといった課題がある。

学習指導要領 「英語」改訂の趣旨（方針）

- 外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として、特に、**他者とのコミュニケーションの基盤を形成する観点を重視**しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理した。このため、外国語の目標として、外国語教育の特質に応じた「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」の**言語活動を通して情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション**を図るために必要な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を更に育成することを目指して改善を図った。
- あわせて①各学校段階の学びを接続させるとともに、②「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、中学校での学びとの接続を意識しながら外国語科の目標を設定した。
- このような目標の下に、統合的な言語活動を通して「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の**五つの領域（以下「五つの領域」という。）を総合的に扱うことを一層重視する科目と、話すことと書くことによる発信能力の育成を強化する科目をそれぞれ新設**し、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることとした。

【出典】「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編」（文部科学省）

「英語科の目標」

下線部は、「英語科の目標」のキーワードです。
スライドNo.11を参照ください。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる**実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能**を身に付けるようにする（「知識および技能」）。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で**情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図**などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う（「思考力・判断力・表現力等」）。
- (3) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う（「学びに向かう力、人間性等」）。

Cf.改訂前の英語科の目標は「①言語や文化に対する理解」「②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」「③情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力」だった。

【出典】「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編」（文部科学省）

学習指導要領の「目標」の改訂内容とその背景

| 指導要領 | 内 容 |
|---------|---|
| 従前課程 | 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うこととした。 |
| 新課程 | 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 |
| 変更内容と背景 | 「言語」を外して「（英語の背景にある）文化に対する理解」としたのは、「コミュニケーションを図ろうとする態度」を養う上では、次に述べる「聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら」コミュニケーションを図ることが大切であり、英語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくるためである。あわせて、英語の学習を通して、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てることも重要である。 |

【出典】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編」(文部科学省)

学習指導要領の「目標」の改訂内容とその背景

| 指導要領 | 内 容 |
|--------|--|
| 従前課程 | 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養うこととした。 |
| 新課程 | 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 |
| 変更点と背景 | <p>「主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」とは、授業等において積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度はもちろんのこと、学校教育以外の場面においても、生涯にわたって英語習得に継続して取り組もうとする意識や態度を養うことを目標としている。これは、学校教育法において、学力の重要な要素として「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう」、「主体的に学習に取り組む態度」を養うことを掲げていることを踏まえたものである。また高等学校では、中学校における「主体的」に加え「自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度」としている。これは、外国語科の特性として、目標を達成するための言語活動において他者とのコミュニケーションが必要とされるが、学習内容等が高度化・複雑化する高等学校においては、授業等において言語活動を通して実際にコミュニケーションを図るだけでなく、それらのコミュニケーションを通して自分にはどのような力が足りないか、どのような学習が更に必要かなどを自ら考え、それぞれが授業での言語活動を充実させるための努力を授業外でも続けようとするより自律的な態度が一層強く求められることと関連している。</p> |

【出典】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編」(文部科学省)

「『英語』の目標」の中のキーワード

- 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」…外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。
- 「統合的な言語活動」…「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の複数の領域を結び付けて統合した言語活動のことであり、中学校の外国語科においても、複数の領域を関連付ける統合的な言語活動を視野に入れた目標が設定されているが、高等学校では、こうした統合的な言語活動を一層重視した目標設定がなされている。
- 「情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」…英語科の目標の中心となる部分である。英語の音声や文字を使って実際にコミュニケーションを図る資質・能力であり、「理解する」「表現する」「伝え合う」という三つの要素に整理した。「理解する」、「表現する」という単に受け手となったり送り手となったりする単方向のコミュニケーションだけではなく、「伝え合う」という双方向のコミュニケーションも重視している。

【出典】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編」(文部科学省)

【共通テスト】出題教科・科目の問題作成の方針の比較

(令和6年度)

※一部抜粋

○ 高等学校学習指導要領では外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって発音アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。

○ 「リーディング」については 様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。



(令和7年度)

※一部抜粋

○ 高大接続改革の中で、高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語(英語)」は、「リーディング」形式と「リスニング」形式の問題を通して、文字や音声による試験の特徴を生かしながら、以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。

・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]、[発表]」「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。

・また、コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙、表現、文法等に関する知識や技能についても、上記の力を問うことを通して引き続き評価する。

「詳細、話し手や書き手の意図(を的確に理解)」が新たに加わっている

【出典】「令和7年度以降の試験に向けた検討について」(大学入試センター)

「概要や要点を把握する」活動とは

概要や要点を把握する活動として、例えば、各段落の最初の文と最後の文を読んで書かれている内容を推測する、全体を読んで書き手の主張や根拠のキーワードをメモにまとめるなどの活動が考えられる。ほかには、書き手の主張がある論証文を読んで、その主張について賛否の立場から意見を伝え合う簡易なディベートや、書き手の意見に対する各自の意見をグループの中で伝え合うディスカッションなどの活動につなげることも考えられる。

「情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分の考えをまとめたりすること」とは

高等学校では、中学校で「英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える」能力を育成することを踏まえ、聞いたり読んだりした情報の中から概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを判断しながら的確に捉えたり、聞いたり読んだりして得た情報や考えなどについての自分自身の考えをまとめたりする能力を育成することについて述べている。

情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分の考えをまとめたりすることとは、目的や場面、状況などに応じ、何を聞き取ったり読み取ったりしなければならぬかを判断し、それに基づいて概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、聞いたり読んだりして得た情報を整理したり、吟味したり、既存の知識と照らし合わせて関連付けたりしながら、自分の考えをまとめたりすることを意味している。

【出典】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編」(文部科学省)

現行の共通テストに見られる新課程の要素

tardigrades into space on the outside of a rocket for 10 days. On their return to earth, the researchers were surprised to see that 68% were still alive. This means that for 10 days most were able to survive X-rays and ultraviolet radiation 1,000 times more intense than here on earth. Later, in 2019, an Israeli spacecraft crashed onto the moon and thousands of tardigrades in a state of tun were spilled onto its surface. Whether these are still alive or not is unknown as no one has gone to collect them — which is a pity. 本文(一部抜粋)

(前略)

コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。

【出典】令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針(大学入試センター)

令和5年のリーディング第6問B 問5のinferの問題は、「書き手の意図を読み取る問題」の先行出題か？

「高等学校教科担当教員の意見・評価」にも「思考力を発揮し, 明確には述べられていない事柄を書かれていることを基に推論する, 新教育課程を視野に入れた出題」と記載されている。

問 5 What can be inferred about sending tardigrades into space? 49

- ① Finding out whether the tardigrades can survive in space was never thought to be important.
- ② Tardigrades, along with other creatures that have been on earth for millions of years, can withstand X-rays and ultraviolet radiation.
- ③ The Israeli researchers did not expect so many tardigrades to survive the harsh environment of space.
- ④ The reason why no one has been to see if tardigrades can survive on the moon's surface attracted the author's attention. (正解)

令和5年のリーディング第6問Bで「書き手の意図」を推測する問題が出題されている。

【出典】「令和5年本試験(リーディング)」(大学入試センター)

新課程の共通テストでも継続されそうな要素

一方で、高校教員と教育研究団体から要望と提言がなされたのでここに言及する。高校教員からは、概要・要点の把握や必要な情報の読み取りに留まることなく、その先にある書き手の意図を深く捉えたり、自分なりの意見や主張を相手に適切に伝えたりする力も評価できるような問題を出題するよう要望があった。また、出題されたような温かみのある物語文によって、受験者が英文を読む動機となるような問題とするためにも、この出題の方向性は続けてほしいとの要望もあった。

また教育研究団体からは、単に受験者の作業量が増えることによる負荷が増えるような問題は避けるようにとの指摘を受けた。日常生活においては、目的に応じた読み方が求められる。これからはより思考力・判断力・表現力等を測ることができる質の高い問題を作成することが課題となっている。共通テストでは、それぞれの場面設定とタスクに応じたスピードと読む目的を明確にし英語を理解することを念頭に、実践的なコミュニケーション場面において「その場で読み取る」能力とともに思考力・判断力・表現力等を測定する出題が求められていることを強調したい。

【出典】「令和5年度 問題評価・分析委員会報告書(本試験)英語(リーディング 自己評価)」(大学入試センター)

共通テストは分量が多く時間内に解くことの困難さが言われるが、問題作成部会の見解としては、実践的なコミュニケーションを想定し、場面設定やタスクに応じたスピード、その場で読み取る能力も測定していることを強調している。

新課程の共通テストでも継続されそうな要素

教育研究団体からは、テストが思考力・判断力・表現力等を問うことを目的としながらも、情報処理能力や処理速度だけを問うような問題設定となってしまうような問題作成を引き続き心掛けてほしいと要望を受けた。一方で、実際のコミュニケーションの場では、ある程度即時的に対応をすることが求められており、このような力もリスニングにおける基礎力を成すものと考えることが必要である。聞き取ったことを瞬時に理解・解釈できるようなリスニングの流暢性の力を高めるような学習にも引き続き力を入れてほしい。共通テストが引き続き、様々な場面で「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」につながる波及効果があるものとなるようにこれからも尽力していきたい。

【出典】「令和5年度 問題評価・分析委員会報告書(本試験)英語(リスニング 自己評価)」(大学入試センター)

問題作成部会は「処理速度だけを問うような問題設定を避けてほしい」という意見に対し実際のコミュニケーションの場での即時的な対応, 聞き取ったことを瞬時に理解・解釈できる流暢性を高めることの大切さを述べている。

令和7年度大学入学共通テスト試作問題「英語」の概要

『英語』第A問（リーディング）

「授業中における生徒のスマートフォン使用の是非」というテーマで自分の意見を述べる文章を書く場面を取り上げている。Step1では、スマートフォン使用に関する5者（教師、心理学者、保護者、高校生、校長）の意見を読んで、それぞれの意見とその根拠を理解して整理することができるかを問う。Step2, Step3 では、スマートフォン使用は禁止すべきという立場に立って文章を書くための準備として、自分の意見の理由や根拠を明確に示すために複数の資料を活用したり、書こうとする文章のアウトラインを組み立てたりすることができるかを問う。

【出典】「令和7年度大学入学共通テスト 試作問題「英語」の概要」（大学入試センター）

共通テストの問題作成方針など

【第A問 問1, 2】

第A問

You are working on an essay about whether high school students should be allowed to use their smartphones in class. You will follow the steps below.

- Step 1: Read and understand various viewpoints about smartphone use.
 Step 2: Take a position on high school students' use of their smartphones in class.
 Step 3: Create an outline for an essay using additional sources.

[Step 1] Read various sources

Author A (Teacher)

My colleagues often question whether smartphones can help students develop life-long knowledge and skills. I believe that they can, as long as their use is carefully planned. Smartphones support various activities in class that can enhance learning. Some examples include making surveys for projects and sharing one's learning with others. Another advantage is that we do not have to provide students with devices; they can use their phones! Schools should take full advantage of students' powerful computing devices.

Author B (Psychologist)

It is a widespread opinion that smartphones can encourage student learning. Being believed by many, though, does not make an opinion correct. A recent study found that when high school students were allowed to use their smartphones in class, it was impossible for them to concentrate on learning. In fact, even if students were not using their own smartphones, seeing their classmates using smartphones was a distraction. It is clear that schools should make the classroom a place that is free from the interference of smartphones.

Author C (Parent)

I recently bought a smartphone for my son who is a high school student. This is because his school is located far from our town. He usually leaves home early and returns late. Now, he can contact me or access essential information if he has trouble. On the other hand, I sometimes see him walking while looking at his smartphone. If he is not careful, he could have an accident. Generally, I think that high school students are safer with smartphones, but parents still need to be aware of the risks. I also wonder how he is using it in class.

【新指導要領との関連】

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことが重視されている。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」にある「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」が意識されている。

Author D (High school student)

At school, we are allowed to use our phones in class. It makes sense for our school to permit us to use them because most students have smartphones. During class, we make use of foreign language learning apps on our smartphones, which is really helpful to me. I am now more interested in learning than I used to be, and my test scores have improved. The other day, though, my teacher got mad at me when she caught me reading online comics in class. Occasionally these things happen, but overall, smartphones have improved my learning.

Author E (School principal)

Teachers at my school were initially skeptical of smartphones because they thought students would use them to socialize with friends during class. Thus, we banned them. As more educational apps became available, however, we started to think that smartphones could be utilized as learning aids in the classroom. Last year, we decided to allow smartphone use in class. Unfortunately, we did not have the results we wanted. We found that smartphones distracted students unless rules for their use were in place and students followed them. This was easier said than done, though.

問1 Both Authors A and D mention that .

問1
2人の主張の共通点を読み取る問題。

- ① apps for learning on smartphones can help students perform better on exams
- ② one reason to use smartphones as an educational tool is that most students possess one
- ③ smartphones can be used to support activities for learning both at school and at home
- ④ smartphones make it possible for students to share their ideas with classmates

問2 Author B implies that .

問2
1人の人物の主張から推測されることを読み取る問題。

- ① having time away from digital devices interferes with students' motivation to learn
- ② sometimes commonly held beliefs can be different from the facts that research reveals
- ③ students who do not have smartphones are likely to consider themselves better learners
- ④ the classroom should be a place where students can learn without the interference of teachers

【出典】「令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等」(大学入試センター)

【第A問 問3】

[Step 1] Read various sources

Author A (Teacher)

My colleagues often question whether smartphones can help students develop life-long knowledge and skills. I believe that they can, as long as their use is carefully planned. Smartphones support various activities in class that can enhance learning. Some examples include making surveys for projects and sharing one's learning with others. Another advantage is that we do not have to provide students with devices; they can use their phones! Schools should take full advantage of students' powerful computing devices.

Author B (Psychologist)

It is a widespread opinion that smartphones can encourage student learning. Being believed by many, though, does not make an opinion correct. A recent study found that when high school students were allowed to use their smartphones in class, it was impossible for them to concentrate on learning. In fact, even if students were not using their own smartphones, seeing their classmates using smartphones was a distraction. It is clear that schools should make the classroom a place that is free from the interference of smartphones.

Author C (Parent)

I recently bought a smartphone for my son who is a high school student. This is because his school is located far from home. He can contact me or his friends. I sometimes see him when he is home. He has never had an accident. Good parents still need to be careful.

Author D (High school student)

At school, we are allowed to use our phones in class. It makes sense for our school to permit us to use them because most students have smartphones. During class, we make use of foreign language learning apps on our smartphones, which is really helpful to me. I am now more interested in learning than I used to be, and my test scores have improved. The other day, though, my teacher got mad at me when she caught me reading online comics in class. Occasionally these things happen, but overall, smartphones have improved my learning.

Author E (School principal)

Teachers at my school were initially skeptical of smartphones because they thought students would use them to socialize with friends during class. Thus, we banned them. As more educational apps became available, however, we started to think that smartphones could be utilized as learning aids in the classroom. Last year, we decided to allow smartphone use in class. Unfortunately, we did not have the results we wanted. We found that smartphones distracted students unless rules for their use were in place and students followed them. This was easier said than done, though.

【新指導要領との関連】

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことが重視されている。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」にある「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」が意識されている。

[Step 2] Take a position

問3 Now that you understand the various viewpoints, you have taken a position on high school students' use of their smartphones in class, and have written it out as below. Choose the best options to complete [3], [4], and [5].

Your position: High school students should not be allowed to use their smartphones in class.

- Authors [3] and [4] support your position.
- The main argument of the two authors: [5].

Options for [3] and [4] (The order does not matter.)

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D
- ⑤ E

Options for [5]

- ① Making practical rules for smartphone use in class is difficult for school teachers
- ② Smartphones may distract learning because the educational apps are difficult to use
- ③ Smartphones were designed for communication and not for classroom learning
- ④ Students cannot focus on studying as long as they have access to smartphones in class

問3

ある立場に立ったときに、同じ意見である人や、その主張を選ぶ問題。

【第A問 問4, 5】

[Step 3] Create an outline using Sources A and B

Outline of your essay:

Using smartphones in class is not a good idea

Introduction

Smartphones have become essential for modern life, but students should be prohibited from using their phones during class.

Body

Reason 1: [From Step 2]

Reason 2: [Based on Source A]

Reason 3: [Based on Source B]

Conclusion

High schools should not allow students to use their smartphones in class.

Source A

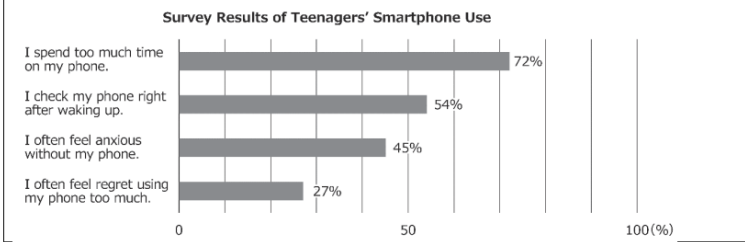
Mobile devices offer advantages for learning. For example, one study showed that university students learned psychology better when using their interactive mobile apps compared with their digital textbooks. Although the information was the same, extra features in the apps, such as 3D images, enhanced students' learning. It is important to note, however, that digital devices are not all equally effective. Another study found that students understand content better using their laptop computers rather than their smartphones because of the larger screen size. Schools must select the type of digital device that will maximize students' learning, and there is a strong argument for schools to provide computers or tablets rather than to have students use their smartphones. If all students are provided with computers or tablets with the same apps installed, there will be fewer technical problems and it will be easier for teachers to conduct class. This also enables students without their own smartphones to participate in all class activities.

【新指導要領との関連】

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことが重視されている。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」にある「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」が意識されている。

Source B

A study conducted in the U.S. found that numerous teenagers are addicted to their smartphones. The study surveyed about 1,000 students between the ages of 13 and 18. The graph below shows the percentages of students who agreed with the statements about their smartphone use.



問4 Based on Source A, which of the following is the most appropriate for Reason 2?

- ① Apps that display 3D images are essential for learning, but not all students have these apps on their smartphones.
- ② Certain kinds of digital devices can enhance educational effectiveness, but smartphones are not the best.
- ③ Students should obtain digital skills not only on smartphones but also on other devices to prepare for university.
- ④ We should stick to textbooks because psychology studies have not shown the positive effects of digital devices on learning.

問5 For Reason 3, you have decided to write, “Young students are facing the danger of smartphone addiction.” Based on Source B, which option best supports this statement?

- ① Although more than half of teenagers reported using their smartphones too much, less than a quarter actually feel regret about it. This may indicate unawareness of a dependency problem.
- ② Close to three in four teenagers spend too much time on their phones. In fact, over 50% check their phones immediately after waking. Many teenagers cannot resist using their phones.
- ③ Over 70% of teenagers think they spend too much time on their phones, and more than half feel anxious without them. This kind of dependence can negatively impact their d
- ④ Teen using t to nigh

問4, 5

ある立場に立って文章を作成する際のアウトラインを組み立てるために、複数の資料を活用して自分の意見をサポートする理由を選ぶ問題。

令和7年度大学入学共通テスト試作問題「英語」の概要

『英語』第B問（リーディング）

「英語」の授業で「環境に配慮したファッション（サステナブルファッション）」をテーマとして文章を作成する過程で、自分が書いた原稿に対する教師のコメントを踏まえて推敲するという場面を取り上げている。読み手に分かりやすいように、文章の論理の構成や展開に配慮して文章を修正することができるかを問う。

【出典】「令和7年度大学入学共通テスト 試作問題「英語」の概要」（大学入試センター）

共通テストの問題作成方針など

【第B問】

第B問

In English class you are writing an essay on a social issue you are interested in. This is your most recent draft. You are now working on revisions based on comments from your teacher.

| Eco-friendly Action with Fashion | Comments |
|--|---|
| <p>Many people love fashion. Clothes are important for self-expression, but fashion can be harmful to the environment. In Japan, about 480,000 tons of clothes are said to be thrown away every year. This is equal to about 130 large trucks a day. We need to change our “throw-away” behavior. This essay will highlight three ways to be more sustainable.</p> <p>First, when shopping, avoid making unplanned purchases. According to a government survey, approximately 64% of shoppers do not think about what is already in their closet. ⁽¹⁾ So, try to plan your choices carefully when you are shopping.</p> <p>In addition, purchase high-quality clothes which usually last longer. Even though the price might be higher, it is good value when an item can be worn for several years. ⁽²⁾ Cheaper fabrics can lose their color or start to look old quickly, so they need to be thrown away sooner.</p> <p>Finally, ⁽³⁾ think about your clothes. For example, sell them to used clothing stores. That way other people can enjoy wearing them. You could also donate clothes to a charity for people who need them. Another way is to find a new purpose for them. There are many ways to transform outfits into useful items such as quilts or bags.</p> <p>In conclusion, it is time for a lifestyle change. From now on, check your closet before you go shopping, ⁽⁴⁾ select better things, and lastly, give your clothes a second life. In this way, we can all become more sustainable with fashion.</p> | <p>(1) You are missing something here. Add more information between the two sentences to connect them.</p> <p>(2) Insert a connecting expression here.</p> <p>(3) This topic sentence doesn't really match this paragraph. Rewrite it.</p> <p>(4) The underlined phrase doesn't summarize your essay content enough. Change it.</p> |
| <p>Overall Comment: Your essay is getting better. Keep up the good work. (Have you checked your own closet? I have checked mine! ©)</p> | |

【指導要領の改訂との関連】

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことが重視されている。「英語科の目標」にある統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を意識した問題。

問1
前後の文章をつなぐのに適した情報を選ぶ問題。

問1 Based on comment (1), which is the best sentence to add?

- ① As a result, people buy many similar items they do not need.
- ② Because of this, customers cannot enjoy clothes shopping.
- ③ Due to this, shop clerks want to know what customers need.
- ④ In this situation, consumers tend to avoid going shopping.

問2 Based on comment (2), which is the best expression to add?

- ① for instance
- ② in contrast
- ③ nevertheless
- ④ therefore

問2
前後の文章をつなぐのに適した接続表現を選ぶ問題。

問3 Based on comment (3), which is the most appropriate way to rewrite the topic sentence?

- ① buy fewer new clothes
- ② dispose of old clothes
- ③ find ways to reuse clothes
- ④ give unwanted clothes away

問3
パラグラフの内容に合うように、トピックセンテンスを書き換える問題。

問4 Based on comment (4), which is the best replacement?

- ① buy items that maintain their condition
- ② choose inexpensive fashionable clothes
- ③ pick items that can be transformed
- ④ purchase clothes that are second-hand

問4
エッセイの内容として十分な要約になるように、表現を書き換える問題。

リーディング

予想される共通テストの出題

試作問題では、自分の意見を述べる文章を書く場面や教師から指摘を受け、自分が書いた文章を推敲するといった、「読むこと」と「書くこと」の技能統合を意識した問題が出された。特定の立場に立って文章を書くための準備として、自分の意見の理由や根拠を明確に示すために複数の資料を活用したり、書こうとする文章のアウトラインを組み立てたりすることができるか、自分が書いた文章を読み手に分かりやすいように、文章の論理の構成や展開に配慮して文章を修正することができるかが問われた。このように技能統合を意識した出題が予想される。

指導のご提案

- 「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]・[発表]」、「書くこと」の複数の領域を統合した言語活動を行う。
- 試作問題では「読む力」と「書く力」を融合した場面が設定され、共通テストでもこのような出題が予想される。読み取った文章を英語で要約したり、関連するテーマで英文を書いたりする。自分の考えを表明する文章を書くことを想定し、文と文の論理関係を正しく理解し、表現できる力を育成し、日頃から文と文の関係を意識しながら読む練習をする。
- スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを行い、目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝える表現などの知識を活用する力を付ける。

【出典】「令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等」(大学入試センター)

言語の働きについての改訂ポイント

(試作問題が2問とも文章の作成や修正を想定した問題でしたので掲載します)

言語の働きの例

新課程で加えられた事項

(ア) コミュニケーションを円滑にする
 ・相づちを打つ ・聞き直す ・繰り返す ・言い換える ・話題を発展させる ・話題を変える など

(イ) 気持ちを伝える
 ・共感する ・褒める ・謝る ・感謝する ・望む ・驚く ・心配する など

(ウ) 事実 ・ 情報を伝える
 ・説明する ・報告する ・描写する ・理由を述べる ・要約する ・訂正する など

(エ) 考えや意図を伝える
 ・提案する ・申し出る ・賛成する ・反対する ・承諾する ・断る ・主張する ・推論する
 ・仮定する など

(オ) 相手の行動を促す
 ・質問する ・依頼する ・誘う ・許可する ・助言する ・命令する ・注意をひく ・説得する など

「言語の働きの例」においてマーカー部分の事項が新課程で追加になった。このような言語の働きの出題にも対応できる力を身に付けておきたい。

【出典】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編」(文部科学省)

令和7年度大学入学共通テスト試作問題「英語」の概要

『英語』第C問（リスニング）

「幸福観」に関する大学の講義を聞き、その後、学生同士が講義内容を伝え合ったり、その講義内容や自分たちが調べてきたことを踏まえてディスカッションをしたりする場面を取り上げている。「聞くこと」と「話すこと[やり取り]・[発表]」の統合的な言語活動により、学んだ内容の理解をより深めるような学習の過程を設定した問題である。各設問では、こうした学習の過程で求められる力、例えば、講義を聞いて概要・要点を把握する力、聴き取った情報を他者と共有したり、話し合ったりする力、聴き取った情報と問題文中に示されたグラフ資料を統合的に処理する力等を問う。

なお、本試作問題は、令和3年度大学入学共通テスト本試験（1月16日実施）の『英語（リスニング）』の問題を基に、平成30年告示高等学校学習指導要領において強調されている、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]・[発表]」、「書くこと」の複数の領域を統合した言語活動をより意識した問題となるよう、再構築したものである。

【出典】「令和7年度大学入学共通テスト 試作問題「英語」の概要」（大学入試センター）

【第C問】問27～31 ※問27から31については、令和3年度の内容から変更なし。

状況

あなたはアメリカの大学で、幸福観についての講義を、ワークシートにメモを取りながら聞いています。

ワークシート

○ World Happiness Report

- Purpose: To promote [27] happiness and well-being
- Scandinavian countries: Consistently happiest in the world (since 2012)

Why? ⇒ “Hygge” lifestyle in Denmark

↓ spread around the world in 2016

○ Interpretations of Hygge

| | Popular Image of Hygge | Real Hygge in Denmark |
|-------|------------------------|-----------------------|
| What | [28] | [29] |
| Where | [30] | [31] |
| How | special | ordinary |

問27 ワークシートの空欄 [27] に入れるのに最も適切なものを、四つの選択肢(①～④)のうちから一つ選びなさい。

- ① a sustainable development goal beyond
- ② a sustainable economy supporting
- ③ a sustainable natural environment for
- ④ a sustainable society challenging

問28～31 ワークシートの空欄 [28] ～ [31] に入れるのに最も適切なものを、六つの選択肢(①～⑥)のうちから一つずつ選びなさい。選択肢は2回以上使ってもかまいません。

- | | | |
|--------------|-----------------|------------|
| ① goods | ② relationships | ③ tasks |
| ④ everywhere | ⑤ indoors | ⑥ outdoors |

【出典】「令和7年度試験の問題作成の方向性, 試作問題等」(大学入試センター)

【第C問】問32

状況

あなたはアメリカの大学で、幸福観についての講義を、ワークシートにメモを取りながら聞いています。

Question No.27 to 32

講義音声の内容は令和3年本試験から変更なし。

What is happiness? Can we be happy and promote sustainable development? Since 2012, the *World Happiness Report* has been issued by a United Nations organization to develop new approaches to economic sustainability for the sake of happiness and well-being. The reports show that Scandinavian countries are consistently ranked as the happiest societies on earth. But what makes them so happy? In Denmark, for example, leisure time is often spent with others. That kind of environment makes Danish people happy thanks to a tradition called “hygge,” spelled H-Y-G-G-E. Hygge means coziness or comfort and describes the feeling of being loved.

This word became well-known worldwide in 2016 as an interpretation of mindfulness or wellness. Now, hygge is at risk of being commercialized. But hygge is not about the material things we see in popular images like candlelit rooms and cozy bedrooms with hand-knit blankets. Real hygge happens anywhere—in public or in private, indoors or outdoors, with or without candles. The main point of hygge is to live a life connected with loved ones while making ordinary essential tasks meaningful and joyful.

Perhaps Danish people are better at appreciating the small, “hygge” things in life because they have no worries about basic necessities. Danish people willingly pay from 30 to 50 percent of their income in tax. These high taxes pay for a good welfare system that provides free healthcare and education. Once basic needs are met, more money doesn't guarantee more happiness. While money and material goods seem to be highly valued in some countries like the US, people in Denmark place more value on socializing. Nevertheless, Denmark has above-average productivity according to the OECD.

【新指導要領との関連】

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことが重視されている。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」にある「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」が意識されている。

【令和3年本試験】

問32 講義の内容と一致するものはどれか。 最も適切なものを、四つの選択肢

(①～④)のうちから一つ選びなさい。 32

- ① Danish people are against high taxes to maintain a standard of living.
- ② Danish people spend less money on basic needs than on socializing.
- ③ Danish people's income is large enough to encourage a life of luxury.
- ④ Danish people's welfare system allows them to live meaningful lives.

【試作問題】

Question No.32

出題の変更に伴い新たに加わった音声。

Student A : Danish people accept high taxes which provide basic needs.

Student B : Danish people value spending time with friends more than pursuing money.

問32 講義後に、あなたは要約を書くために、グループのメンバーA、Bと、講義内容を口頭で確認しています。 それぞれの発言が講義の内容と一致するかどうかについて、最も適切なものを四つの選択肢(①～④)のうちから一つ選びなさい。 32

- ① Aの発言のみ一致する
- ② Bの発言のみ一致する
- ③ どちらの発言も一致する
- ④ どちらの発言も一致しない

目的(講義後に要約を書く)や活動場面(メンバーと講義の内容を口頭で確認)が明確になった。講義を聞いて概要・要点を把握する力、聞き取った情報を他者と共有したり、話し合ったりする力が問われる問題。

共通テストの問題作成方針など

【第C問】問33

状況

あなたはアメリカの大学で、幸福観についての講義を、ワークシートにメモを取りながら聞いています。

Question No.27 to 32 講義音声の内容は令和3年本試験から変更なし。

What is happiness? Can we be happy and promote sustainable development? Since 2012, the *World Happiness Report* has been issued by a United Nations organization to develop new approaches to economic sustainability for the sake of happiness and well-being. The reports show that Scandinavian countries are consistently ranked as the happiest societies on earth. But what makes them so happy? In Denmark, for example, leisure time is often spent with others. That kind of environment makes Danish people happy thanks to a tradition called “hygge,” spelled H-Y-G-G-E. Hygge means coziness or comfort and describes the feeling of being loved.

This word became well-known worldwide in 2016 as an interpretation of mindfulness or wellness. Now, hygge is at risk of being commercialized. But hygge is not about the material things we see in popular images like candlelit rooms and cozy bedrooms with hand-knit blankets. Real hygge happens anywhere—in public or in private, indoors or outdoors, with or without candles. The main point of hygge is to live a life connected with loved ones while making ordinary essential tasks meaningful and joyful.

Perhaps Danish people are better at appreciating the small, “hygge” things in life because they have no worries about basic necessities. Danish people willingly pay from 30 to 50 percent of their income in tax. These high taxes pay for a good welfare system that provides free healthcare and education. Once basic needs are met, more money doesn't guarantee more happiness. While money and material goods seem to be highly valued in some countries like the US, people in Denmark place more value on socializing. Nevertheless, Denmark has above-average productivity according to the OECD.

【出典】「令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等」(大学入試センター)

【新指導要領との関連】

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことが重視されている。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」にある「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」が意識されている。

【令和3年本試験】

問33 講義の続きを聞き、下の図から読み取れる情報と講義全体の内容からどのようなことが言えるか、最も適切なものを、四つの選択肢(0~④)のうちから一つ選びなさい。 33

第5問の音声さがさらに流れます。

Question No. 33

Here's a graph based on OECD data. People in Denmark value private life over work, but it doesn't mean they produce less. The OECD found that beyond a certain number of hours, working more overtime led to lower productivity. What do you think?

【試作問題】

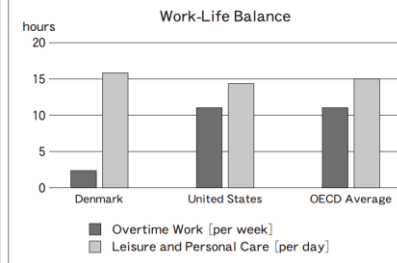
問33 講義の後で、Joe と May が下の図表を見ながらディスカッションをしています。ディスカッションの内容及び講義の内容からどのようなことが言えるか、最も適切なものを、四つの選択肢(0~④)のうちから一つ選びなさい。 33

次に、問33に進みます

Joe: Look at this graph, May. People in Denmark value private life over work. How can they be so productive?

May: Well, based on my research, studies show that working too much overtime leads to lower productivity.

Joe: So, working too long isn't efficient. That's interesting.



図表と選択肢は令和3年本試験から変更なし。

- ① People in Denmark do less overtime work while maintaining their productivity.
- ② People in Denmark enjoy working more, even though their guaranteed.
- ③ People in OECD countries are more productive because they work overtime.
- ④ People in the US have an expensive lifestyle but the most leisure.

講義の続きを聞く設定から、ディスカッションに言語活動が変更となった。講義やディスカッションで聞き取った情報と問題文中に示されたグラフ資料を統合的に処理する力等を問う問題。

リスニング

予想される共通テストの出題

試作問題は、令和3年度大学入学共通テスト本試験（1月16日実施）の『英語（リスニング）』の問題を基に、平成30年告示高等学校学習指導要領において強調されている、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]・[発表]」、「書くこと」の複数の領域を統合した言語活動をより意識した問題となるよう、再構築された。再構築された問題を見てみると、「問題冊子に印刷された英文の中から正しいものを選ぶ問題」から、「講義後に、講義の内容についてメンバーと口頭で確認して、講義内容と一致するか判断する問題」に変わっている。この変更によって、場面や目的が明確になり、「聞くこと」と「話すこと」といった異なる領域を統合した言語活動を意識した問題になっている。このように技能統合を意識した出題が予想される。

指導のご提案

- 「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]・[発表]」、「書くこと」の複数の領域を統合した言語活動を行う。
- 実際のコミュニケーションの場を想定し、聴き取ったことを瞬時に理解・解釈できるようなリスニングの流暢性を高める。
- スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを行い、目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開、情報や考えなどを効果的に伝える表現などの知識を活用する力を付ける。

【出典】「令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等」（大学入試センター）



株式会社ラーンズ

本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。
本資料に関するお問い合わせや、
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料

受付時間/月～金 9:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)



株式会社ラーンズは、ベネッセグループです。